〈校章〉

辰鈴山

題字 元文部大臣 瀬戸山三男氏

〈シンボルマーク〉

【October 2016】 平成28年10月20日

ご挨拶

南九州大学同窓会会長
後藤 克信（45L）

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととともに日頃より同窓会活動にご協力いただき感謝申し上げます。

この度、役員会の推薦および会長選挙に於きまして、平成28年7月より会長を務めさせて頂くことになりました45Lの後藤克信と申します。

先ず初めに、今年4月14日の熊本・大分県で相次いだ地震により甚大な被害にあわれました皆様にこの場をお借り致しまして、心よりお見舞い申し上げます。

南九州大学同窓会会員数10,000名を超える皆様、そして歴代会長の築かれた伝統や歴史を考えますと、その責任の重さに身が引き締まる思いでございます。

皆様の温かいご支援や多くのご協力を賜り平成29年度の秋には、創立50周年式典を迎えることとなりました。微力ではございますが会長として母校と同窓会発展の為、一生懸命務めさせて頂く所存でございます。

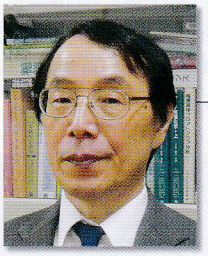
しかしながら昨今の経済情勢、少子化問題等により私学を取り巻く環境は非常に厳しい状況下におかれております。また、日本全国民を巻き込み混沌とした局面に差し掛かり、乗り越えなければならない問題も浮上しつつあります。このような状況下の中ですが、一筋の光が見出せることがあれば何かが変わるのではないかとも感じております。そのためには皆様のご支援、ご協力がなければ成しえないことだと考えております。

同窓会として今何ができるか、同窓会としてどのような役割を果たすことができるのか、そして南九州大学を発展させる為にはどうあるべきか在学生の為に役立てる事はないかと現在模索中でございます。

そこで今後の課題と致しまして、同窓会本来の目的である会員相互の交流と親睦を図る為、全卒業生とのネットワークを広げていきたいと思っております。

最後になりましたが、3期6年間を会長としてご尽力頂きました加藤前会長に感謝の意を表しますと共に会員の皆様のより一層お力添えを頂けます様お願い申し上げます。

同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍そして南九州大学の益々の発展をお祈り申し上げまして会長の挨拶とさせて頂きます。



ご挨拶

南九州大学長
寺原 典彦

爽秋の候、南九州大学同窓生の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、南九州大学の運営について、日頃よりご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年度から同窓会会長さんが後藤克信様に交代され、心機一転新たな出発ということで、同窓会の益々のご発展とご活躍のほうご期待申し上げます。

さて、昨今の大学を取り巻く状況は18歳人口減少や、社会人の学び直しのニーズ、グローバル化に伴うアジア諸国からの留学ニーズの高まりなど予断が許せません。その中で、大学教育の質的転換の要望はますます高まり、大学自らが新しいガバナンスの枠組みを主体的につくり、学生の専門教育・研究はもちろんのこと、社会の求める「主体的に学び考え、どんな状況にも柔軟に対応できる人材」育成の重要性が指摘されるようになってきています。また、人口減少や経済のグローバル化など、激変する社会情勢に対応するために、宮崎県などの地方自治体では、生き残りをかけた「地方創生」が声高に叫ばれております。

このような中、地方の小規模大学である南九大が将来にわたって安定的に存続し、宮崎を代表する私立大学としてさらに発展していくためには、本学の現状を見据え、機動的に大学改革を実施していく必要があります。これまで、各学部・学科においてできるところから改革は継続的に進められ、一定の成果は出ておりますが、外部評価などではまだ満足できるまでには至っていないのが現状です。

ご存知のように本学は、『創造性・人間性・社会性豊かな人材を育成するとともに、「食・緑・人」に関する専門分野において、社会に貢献できる人材を育成する』という基本理念の下に、それぞれの専門分野の実学的教育研究活動を通して専門職業人をはじめとする人材を育成・輩出し、地域の発展に寄与することを目指しています。

では、南九大の特徴（長所）とは何でしょうか？

私は、（1）宮崎県で最初の、かつユニークな園芸学部の私立大学であり、園芸学部をベースとした約50年の蓄積された学校資源（歴史、伝統、文化、南九大カラー）があり、また1万人以上の卒業生がいること。（2）現在、宮崎と都城の2キャンパスに専門性の高い3学部本4学科を持ち、人類にとって重要な「食・緑・人」を教育研究理念としており、シンボルマーク（）には「環境と生命の調和」および「持続可能な発展」が象徴されていること。（3）自然環境と生命にやさしい人間性・社会性を育てるという気風が根付いていること。（4）学生数1,200人程度の小回りの利く小規模大学であること。と捉えています。

このような本学の特徴を有効に生かして、全学的な将来ビジョンを建て、現有学部・学科の充実を手始めにスピーディーに改革を進め、平成30年頃までに、差別化された独自性（食・緑・人の専門職業人を育成し、地域に輩出して、地方創生の担い手になる。）を持つ小規模大学のブランド力の強化を図り、「南九大らしさ」のポジションを確立することが重要だと考えております。

そのための方策のひとつとして、文科省主催の『平成28年度私立大学総合支援事業』に応募して、「建学の精神を生かした大学教育の質向上」という課題の要件に沿って、効果的に体制や制度を整備する中で、全学的な教学面での改革を押し進めております。また、同時に『平成28年度私立大学研究ブランディング事業』にも応募し、教育研究の実践の場としての宮崎県の各自治体（宮崎県、宮崎市、都城市、木城町、綾町など）と連携しながら、本学の特色を生かした全学的優先課題を設定し、地方創生（地域資源の有効活用、地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化など）に寄与する実践的研究を行うことにより、全学的な研究体制の整備などを行う予定にしております。

このような全学的な模索や取組を行い、本学をこれまで以上に評価される大学にしていくために、教職員と協力して努力していきたいと思っております。今後とも同窓生の皆様のより一層のご理解とご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

またご存知のように、平成29年度に本学は創立50周年を迎えます。その記念事業を行うための準備委員会を設置しました。今後、委員長として準備を進めて行く予定ですので、こちらの方でもご協力を賜れば幸いです。